



みんなハッピープロジェクト ~今、子どもたちの活動が熱い~

武蔵ヶ丘小学校(根本まり子校長、全校児童298人)は、学校教育目標「ちがいを豊かに 自分に夢と自信を」を掲げ教育活動を進めています。本年度は、児童会活動との協働による学校経営を目指し、児童会目標「みんなハッピープロジェクト! ~一人ひとりのちがいを認め合い、みんなが幸せだと思える武蔵ヶ丘小を作ろう!~」のもと活動を続けています。前期は、「武蔵ヶ丘小オリジナルキャラクターコンテスト」「クラブ設立書を作成してのクラブ活動設立」「みんなであつなごう! 平和への願い(修学旅行に向けて)」など、子どもたちが主体となって活動を進めました。後期も児童会活動との協働を進めていきます。



武小オリジナルキャラクター、ムサシ発表の様子(Live 配信)

短歌会

菊陽句会報

きくよう文芸

ひりひりと痛み出す悔い秋彼岸	田島 三間	虫の声をせて地球は回りけり	高橋 孝子
五輪わく花咲くメダル秋は立つ	宮川ユキエ	コロナ疫の無念の辞退球児の夏	木村 信子
今朝落ちの庭栗土産に庭師来る	紫藤 祥子	椀洗う厨を抜ける処暑の風	財津 早雪
馴染たる肥後弁丸だし秋灯下	曾我 育代	秋のいろ病みて一日を讀書する	原野レイ子
向日葵の群れて明るき曇り空	曾我トモ子	真夜中の厨に響く虫のこえ	寺尾千代子
暴風に野良着のままに稲つるぶ	緒方チエ子	休暇明け陽の校庭に子等駆ける	北川しんじ
吾亦紅知識深める阿蘇路かな	米山るみ子	露草の露のはじめの出逢ひかな	田中 郁子
列島は悲鳴コロナ秋豪雨	吉田 幸子	敗戦のかの夕暮も赤とんぼ	佐藤 澄世

天の底抜けしと覚ゆ瀑流の人家田畑に襲ひかかれる	有久 賢治
久しぶり秋の野菜は高値なりリーフレタスの収穫近し	梅田 國雄
畔草の中に茎立つ彼岸花真赤に咲きて秋を吾が知る	佐藤せい子
雲は巻き処暑は確かにここにあり熱中症アラート今日も出れど	田中 成美
大高きシオンの花は風に揺れ庭の草木に語るがごとし	中村トシエ
群青の空に群れなす綿雲は夕日あたりて緋色となりぬ	馬場 礼子
大空をハヤブサ太郎が急降下つばと鋭く獲物に迫る	松本 東亜

「武蔵ヶ丘中人権委員会からの発信」

「月に一度の人権放送」

人権委員会副委員長 續 啓志



右側が人権委員会委員長の後藤さん 左側が副委員長の續さん

武蔵ヶ丘中学校では人権委員会の取組の一つとして、今年から給食時間に、人権に関する放送を月に1回、行っています。「正しく知る」と「人権にもっと興味を持つ」ことが、みんなの人権を守ることにつながるので、しっかり調べて原稿を書いています。

この放送を担当するようになって、自分自身が変わったことが2つあります。

一つ目は、「いじめ」や「差別」、「人権」に関することを伝える中で、「性の多様性」のことについて、伝える時の言葉遣いです。例えば、「僕たち」「私たち」という言葉は使わず、「自分たち」と表現したことです。自分たちは、2年生で「性の多様性」について学習しました。でも、これらの学んだことを無駄にせず、自分で放送を使って伝えようと思ったときに、何度も調べ直して考えました。

2つ目は、テーマにした事実について、知らなかったことは知ることができ、知っていたことは更に深く学べたことです。例えば、「熊本大震災」の4月16日の本震で亡くなられた大和晃(やまとひかる)さんのことです。晃さんは、前震で被災した友人の家に水を持って行く優しい大学生でした。しかし、友人に水を届けて、車で家に帰る途中に、本震に襲われ、阿蘇大橋の崩落に巻き込まれました。晃さんのことや晃さんを探し続けたご家族のことを知って、自分の普段の暮らしはどうか? 晃さんみたいに誰かに優しくできているかな? 自分の家族は? と考えることができました。

このように、自分自身が変わることができたこと以外にも、昼の放送を聞いてくれていた学校のなかまたちが、前と少し変わってきたと感じるようにもなりました。それは、「いけない」と思った言葉を使うのを、すぐにやめているということです。みんなの様子を見て、自分がした放送は、みんなが受け止めてくれていたんだと思いました。

これからも、毎月、「これまでにあった知るべき、伝えるべき事実」を放送して、伝えたいことを伝わりやすくするために、自分でしっかりと事実を調べ、自分の考えたことを自分の言葉で伝えていきたいです。そして、「いじめをしない・させない」なかまをつくり、よりよい学校にし、誰もが自由で、落ち着いて過ごせるように、武蔵ヶ丘中学校から地域に「人権」を発信していきたいです。

「人権委員長として思うこと」

人権委員会委員長 後藤 七海

武蔵ヶ丘中学校の人権委員会では、「お互いの良さを見つけて共有する」を目標に、様々な活動を行っています。そこで、人権委員会では、人権アンケートをとりました。

人権アンケートでは、「あなたのクラスでいじめや差別はあると思いますか」ということについて聞きました。すると、ほとんどの人が「ない」と答えていました。しかし、「ある」と答えた人もいました。その内容は「頑張っているのにばかにする」とか「陰口を言う」、「人によって態度を変える」などでした。悪気はなく、それが差別やいじめなのかわからないでやっつけてしまっている人もいるかもしれません。しかし、誰かが言った一言で、とても傷つく人がいると思います。

私は、いじめられたり、避けられたりしたら、「あれ? 自分は何か悪いことをしたかな?」と、いじめられた人が自分自身を責めてしまうのではないかと思います。いじめや差別は、「いじめられる人」の問題ではないのに、自分を責めてしまうのです。それは、間違っていると思います。いじめている人がいじめをしなければ、いじめはなくなるはずですが、いじめていた人も、後になって「いじめなんかしなきゃ良かった」といつか後悔するのではないかと思います。

「いじめられる」つらい気持ちも「いじめる」後悔も、お互いが知り合うことでわかり合うなかまになれると私は思います。学校からいじめをなくしたかったので、私は今、人権委員長をしています。

正直、人権委員長になって、仕事がとても忙しくて大変だとも思ってしまうかもしれません。しかし、みんなが心から笑顔で学校にわくわくして登校してくることができるように、これからも副委員長と協力して、人権委員会のみんなと一緒に頑張っていきたいです。